

農林水産部

第11回沖縄地域 農政懇談会の開催



懇談会の様子(サザンプラザ海邦)

6月7日、サザンプラザ海邦において第11回沖縄地域農政懇談会が開かれました。本懇談会は、沖縄の各界各層の代表者から構成され、その時々の農政上の課題を取り上げて意見交換を行うため、毎年、沖縄総合事務局主催で開催しているものです。

昨年九月以降、BSE問題、食品虚偽表示問題など消費者の食品に対する不安が増大しており、農林水産省からは今年四月に「食」の安全と安心の確保に向けた農林水産施策の抜本的改革を行う上での設計図として、『「食」と「農」の再生プラン」を策定しました。今回の懇談会は、本プランについて、沖縄の各界各層の皆さんから幅広く意見をいただき、本プランの具体化に生かしていくために開催されたものです。

懇談会では活発な議論が行われ、『「ブランド日本」の確立のために、Sunkist、Doleといった巨大ブランドに対抗する明確な戦略を立てるべき』、「食べ物や農業に関する『食育』の推進のための具体的方策を検討するべき』、『都市と農山漁村の共生・対流』の推進のためには、豪華な施設や林道・農道をいたずらに作るのではなく、効果的、効率的な投資を行うべき』、「食品の表示について、JAS法の改正により罰則の厳格化を徹底するべき」といった意見が出されました。

沖縄総合事務局では、これらの意見を取りまとめて農林水産省に伝えとともに、今後の沖縄における農林水産行政に反映させていきます。

財務部

財政講演会開催

去る7月31日、沖縄総合事務局財務部主催による財政講演会が那覇市のメルパルク沖縄において行われ、産業界、金融・保険業界、行政機関、婦人団体など、約110名余人が出席しました。講師には財務省主計局主計企画官の菊地和博氏を迎え、「我が国財政の現状と課題」について講演を行いました。

菊地氏は講演のなかで、公債残高が平成14年度末で414兆円、公債依存度も36.9%と見込まれ、公債の累増に伴い政策的な経費である一般歳出の割合が大幅に低下し、財政の対応力が失われつつあるわが国の厳しい財政の現状を説明しました。また、現在、受益に応じた租税負担が行われていないことから、今後、少子・高齢化が進むにつれて、わが国の国民負担率はさらに上昇する見込みであるとして国民負担率のあり方を説明しました。

聴講された方々からは、今後の税収の確保、地方交付税制度のあり方等について質問があり、それに対して菊地氏はこれからのわが国の経済・社会にふさわしい税制にするためにも税制全体を見直す必要があること、また膨大な公債残高を踏まえ、地方自治体においては事業の必要性を認識し、地方交付税制度のもつ財政の補填機能に頼らない財政運営にあたる必要があると述べました。



菊地財務省主計局主計企画官を迎えての財政講演会

運輸部

交通バリアフリー教室を開催

沖 縄総合事務局運輸部では、去る7月31日(水)、那覇港泊ふ頭北岸及び高速船において「交通バリアフリー教室」を開催しました。

この教室は公共交通機関の利用に当たり、誰もが高齢者や身体障害者等に対し、「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指すものであり、県内初のバリアフリー対応高速旅客船「クィーンざまみ3」が就航する機会をとらえて実施しました。

参加者は車椅子利用体験、視覚障害者疑似体験、高齢者疑似体験の班に分かれ、講師やアドバイザーの説明を受けながら船内エレベーターの乗降やトイレの使用方法を体験し、高齢者や身体障害者の立場での声のかけ方や介助方法を学びました。

参加者から、設備等の100%バリアフリー化は難しくても周囲のサポートで100%に近づけることができることに気づいたとして、今後も教室開催の必要性を求める声が多く寄せられました。



高齢者疑似体験

車椅子利用体験

開発建設部

「^{うちなー} 沖縄^{たまみじ}玉水ネットワーク」の発足



沖縄玉水ネットワーク会議

近 年、市民活動の参加意欲が高まっており、河川においても身近に感じられる自然空間を地域づくりに活かそうという機運が高まりつつあり、実際の河川整備においても平成九年度の法改正にともない河川整備計画の策定に当たって地域住民の意見を反映させる手続きが法制化されています。

沖縄の各河川を、より良い河川にするためには河川整備の計画から管理段階まで地域住民の積極的な参加が必要となっております。

そこで、住民組織活動を一層充実させ、「川づくり」へ反映させるため、住民活動の横のつながりを構築することと行政との協働体制方策を考えるものとして「沖縄玉水ネットワーク」を発足しました。

「沖縄玉水ネットワーク」の活動が軌道に乗るまでの一年間は「沖縄玉水ネットワーク」事務局を沖縄総合事務局開発建設部河川課で担当することとなりました。

※「玉水」…玉水とは水が天からの授かりものの宝(玉)のようなもので、まさしく水(雨)は天から降ってくる(授かる)宝という意味。

経済産業部

2002年・夏の省エネキャンペーンの開催

去 る7月27日、財団法人省エネルギーセンター及び当局の主催による「2002年・夏の省エネキャンペーン」がパレットくもじ前広場で行われました。

本キャンペーンは、夏場の冷房使用により電力需要が増大することから、省エネルギーへの協力を広く国民に呼びかけるため、毎年「夏の省エネ総点検の日」である8月1日を前に、全国的に行う広報活動の一環として実施しているものです。

街頭キャンペーンの開会宣言では、古谷経済産業部長が「地球温暖化防止対策を推進する上での一層の省エネ」への理解と協力を県民に求めました。



また、ミス沖縄の垣花綾乃さんをはじめとするキャンペーンスタッフによる、「うちわ」、「ウェットティッシュ」などの省エネグッズの配布や、アトラクションとして登場した、女性四人組のバンド「ピンクラディッシュ」による省エネソングの演奏により、省エネ気運を盛り上げました。